

担い手農家・農業法人・集落営農組織むけ情報誌
お時間がある時にご覧いただきますようお願い申し上げます。

担い手農家の皆様への支援

☆本乾燥粳でのJA施設利用をご提案します！

共同乾燥調製施設では、本乾燥粳(荷受時の水分16%以下)の荷受けに対して特別料金を設定しています。(要事前申込)

《**利用料金は、本乾燥粳 60 kgあたり 1,122 円(税込)です。**》

※施設への搬入時間は、午前10:00~午後6:00です。(荷受中継基地の受付は、午前10:00~午後5:00です。)

☆コメを集荷場所へ持込される場合にも支援します！

担い手農家のみなさまが、JAに出荷いただくお米をJAの集荷場所まで直接持込いただいた場合には、持込奨励金をお支払いします。

《**持込奨励金は、30kgにつき 50 円(税込)です。**》

※集荷場所への搬入時間は、午前8:30~午後5:00です。



☆電話一本でコメの庭先集荷に直接伺います！

JAに出荷いただくお米について、担い手農家のみなさまの農舎までJAが集荷に伺います。JA営農経済センター、またはTACまでお気軽にお声かけください。

※庭先集荷のご依頼に対する電話対応、および集荷作業のTAC担当者対応時間は、**月曜日から土曜日までの午前8:30~午後5:00まで**です。

近年、水高による品質低下、もみ高による等級低下が目立っています。乾燥機から上げる前に粳水分の確認、袋詰め前にもみ等異物混入確認及び量目の確認を行いましょう

水稻生育情報

刈り遅れに注意し、適期に収穫しましょう！

入水は、収穫に支障のない範囲で収穫直前まで！

生育状況と収穫適期

水稻の生育は梅雨明け以降の高温の影響で例年より進んでいます。今後、高温状態が続くと登熟期間がさらに短くなりますので、収穫が遅れないよう、出穂後30日までに収穫・調製の準備をしましょう。

<収穫時期の目安>

湖北農業農村振興事務所農産普及課より情報提供

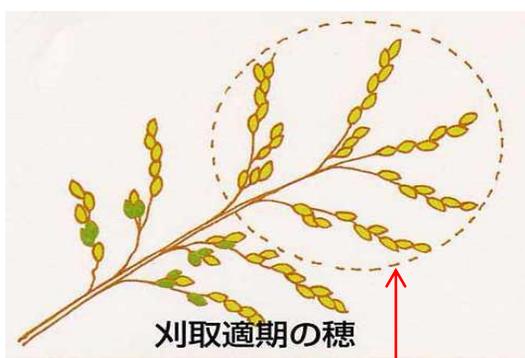
	田植時期	収穫適期予想 (登熟期間32~34日)
みずかがみ	4月下旬~5月上旬	8/20頃~
コシヒカリ	5月上中旬	8/25頃~

※気温の推移や稲体の栄養状態等により成熟期の遅速があるので、ほ場で粳の黄化率を確認してから刈り取り作業を行いましょう。

収穫時期の判断

収穫時期が近づいたら田んぼに入って、
籾の黄化を確認しましょう。

- 籾黄化率50%で、収穫7日前
 - 籾黄化率85~90%
- (みずかがみは90%)で、収穫適期



刈取適期の穂

上から3~4本目の枝穂につく籾が全て黄化した頃

収穫までの水管理

落水時期の目安は、収穫の5日前頃です。

白未熟粒や胴割粒の発生を防ぐため、収穫に支障のない範囲で、できる限り落水を遅らせましょう。



8月は水がとても貴重な時期です。入水する場合は水が届きにくい圃場のことも考慮し、地域で水資源を分けあいましょう！

収穫作業時の事故防止



コンバイン作業事故にご注意下さい！

コンバインによる事故は、以下の3点が多く発生しています。

- ☑ **圃場内・移動中の転倒・横転**
圃場の進入・脱出時は誤操作注意
運転席から見えないところには特に注意しましょう。
- ☑ **整備中の事故**
点検・整備時は必ずエンジンを止めましょう
カバーを外したままの使用は危険です。
- ☑ **巻き込まれ**
手こぎ時はだぶつく服装は巻き込まれやすい！
ぴったりした手袋・服装で作業しましょう。



乾燥・調整作業について

近年、玄米の検査時に、粳を乾燥し調整する段階でのトラブルが原因と思われる事象が増えています。乾燥調整段階でのミスで等級を落とすことがないように、以下のことに気を付けて作業をしましょう。

★作業前の清掃と点検を実施しましょう

収穫までにコンバイン・乾燥機・粳摺り機等を清掃し、Vベルトなどの消耗品を点検して機械トラブルを未然に防ぎましょう。



★適期作業を心掛け、刈り遅れのない作業をしましょう

田植で10日程度の差があっても、収穫時期は3日程度の差となってしまいます。また、同一の品種・栽培条件での機械収穫適期は1週間程度です。今年は出穂以降高温が続いており、例年よりも成熟期が早まっています。天候や機械トラブル等で刈遅れとならないよう、**早めの作業を心掛けましょう。**



★乾燥後、粳摺り前には水分・温度の確認を！

水分が15%を超えると水高となり、常温での保管適正が著しく低下するほか、備蓄米については検査ができません。また、粳が高温のまま粳摺りをするると、肌ずれや胴割れ等の被害が発生しやすくなります。**粳摺り開始前には、粳の水分と温度を確認しましょう。**

★袋詰め時に重量と玄米の確認をしましょう

袋詰め前に、玄米の品質確認と重量の再確認を行いましょう。粳の混入などは袋の中を確認することで等級低下を防げます。また、量目が規定重量を下回る場合は検査が受けられないため、**出荷前に重量の確認をしましょう。**

★パレットへの積み上げは丁寧にいきましょう

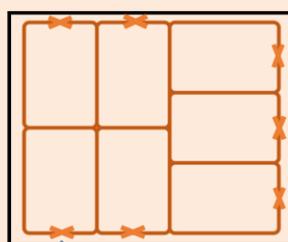
今年から物流改善のため米の出荷用パレットがすべて緑色の専用プラスチックパレットになります。積み方は下記の通りとなりますのでご注意ください。また、以前の木パレットと比べて、**積み上げたときや段積みにしたときにパレットが不安定となりやすいため、積み上げは丁寧に行ってください。**



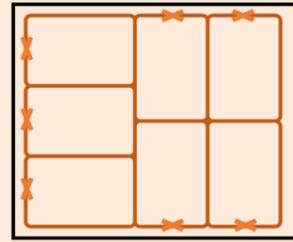
JA出荷用プラスチックパレット

緑色のパレット 7ハイ×5段(35袋)の積み方

◎1段目・3段目・5段目のはい積



◎2段目・4段目のはい積



※必ず結び目が外側になるよう配置してください。

大麦【令和6年産大麦の栽培に向けて】

～早めの排水溝設置で適期は種を目指しましょう～

水稻収穫後は、次年産大麦の栽培に向け、以下を参考に大麦播種の準備を始めましょう。早めの準備で、適期播種がやりやすくなります！！

○早めの額縁排水溝の設置

水稻収穫後、早めに額縁排水溝を設置し、中干し溝と併せてほ場を乾かします。また、コンバイン収穫で荒れているほ場の上下は出来るだけ均平作業を行ないます。

○排水溝の設置

田の乾湿に合わせて、排水溝の間隔を決め(排水の悪いほ場では畦幅を狭く)、畦面や排水溝に水たまりが出来ないように表面排水を行います。また、必ず排水溝を排水口までつなげます。



○土づくりの実践(石灰質資材等の施用)

粒状苦土石灰(100kg/10a)を必ず施用します。土壌pHの目標値は6.5になります。

令和6年産水稻に向けた土壌改良資材の紹介

タイプ

おすすめ肥料

資材の特徴

- A**
- ・バランスよく土づくりをしたい
 - ・複年で土壌養分を改善したい



とれ太郎スーパー
基準量：60kg/10a

リン酸・ケイ酸・アルカリ
を保証する肥料

《ク溶性リン酸・苦土・ケイ酸・アルカリ分をバランスよく含む総合的な土づくり肥料！》

- B**
- ・不足成分に特化して補いたい
 - ・特に品質の向上を狙いたい



けい酸加里プレミア34
基準量：秋春 40kg/10a
追肥 20kg/10a

ケイ酸・加里を保証
する肥料

《管内で不足しているケイ酸と加里の吸収効率を高めた土づくり肥料！》

- C**
- ・複年で転作に取り組んでおり、
大麦や大豆の収量も高めたい



新ふりかけ堆肥eco
基準量：100kg/10a

牛フン堆肥を濃縮した肥料
または
牛フン堆肥1t/10a以上

《腐植酸と有機物の効果で地力窒素を向上させ土壌のバランスを改善する肥料！》

土壌分析

管内の農家を対象に、**1軒あたり5点まで無料**で土壌分析を行っております。

近年、水稻の収量・品質低下の原因の一つには、地力の低下が考えられます。水田土壌を調べ、不足している養分を補う事が収量・品質向上の第一歩です！また、令和5年度春肥の肥料高騰対策で「土壌分析に基づく施肥設計」を選択されている方は、令和5年中に土壌分析をする必要があります。資材投入を機に土壌分析をご希望の方は、お気軽に各担当TACまでご相談ください！！

土壌分析基本項目

水田：pH、CEC、りん酸、石灰、苦土、加里、けい酸
その他：pH、EC、CEC、硝酸態窒素、りん酸、石灰、苦土、加里

土づくり肥料を迷って
おられる方、一度土壌
分析をしましょう

大豆病害虫防除

- 大豆は子実害虫の食害による減収や品質低下が著しいため、薬剤防除は必要不可欠な作業です。
- 莢が付き始める8月中旬から9月中旬にかけて
10日おきに4回の薬剤防除を徹底します。
- 薬剤の散布には専用噴頭を用いるなどして葉の裏や莢に薬剤が十分かかるようにします。



防除時期	薬剤名	散布量 (10aあたり)	対象病害虫
8月中旬	トレボン粉剤DL	4kg	カメムシ類、シロイチモジマダラメイガ、ダイズサヤタマハエ、マメシクイガ、ハスモンヨトウ、フタスジヒメハムシなど
8月下旬	アミスタートレボンSE (ドローン散布登録あり)	1000倍/ 100~400ℓ	マメシクイガ、カメムシ類、紫斑病、アブラムシ類
		8倍/0.8ℓ	
9月上旬	ロムダンフロアブル	2000倍/ 100~300ℓ	ハスモンヨトウ
	ロムダンエアー (ドローン散布登録あり)	16倍/0.8ℓ	
9月中旬	プレバソフロアブル5	4000倍/ 100~300ℓ	ウコンノメイガ、ハスモンヨトウ、マメシクイガ

大豆畝間灌水

大豆は開花期～登熟期に多くの水を必要とし、子実肥大期までのかん水は重要です。水不足は落花や落莢、老化の促進による減収につながります。今後も高温の傾向が続くと予想されていますので、「うね間かん水」を行いましょ

【本葉展開後の場合】

- ・水不足により、葉が裏返り白く見える、または、7日以上雨が降っていない場合は「うね間かん水」を行いましょ。(→)
- ・排水溝(明渠)から思い切って「うね」の中まで水を走らせ、「うね」の肩を超すぐらいまで、土を湿らせてください。(→排水溝のみの通水では、「うね」の中央まで水分補給できません)
- ・うね間かん水は短時間で行います。ほ場全体に水が行き渡ったのち、ただちに水尻の板をはずして、速やかに排水してください。
- ・密播栽培の場合、入水は明渠を超す程度までとし、圃場全体に水が行きわたったのち、速やかに排水してください。



夏季は水がとても貴重な時期です。下流にある水稻圃場へ水が入らないことがないよう、地域で水資源を分けあいましょ！

令和6年産水稻に向けた下準備について

秋耕を実施して稲わらを分解し、次年産の初期生育確保！

「秋起こし」は、本田内でワラを分解させることを目的に行います。

秋起こしのメリット

○地力増進効果

ワラの早期鋤込による堆肥化促進、還元障害(ヤミ田)の抑制効果

○病害虫抑制効果

いもち病・紋枯病等の菌やニカメイガの越冬虫をワラごと鋤込むことで次年の被害減少効果。

○雑草対策

オモダカ・クログワイ等の塊茎を掘り出し地表面の寒さで枯死させ、翌年の雑草発生減少効果。



秋起こしの方法

～時期や圃場条件で方法を変えましょう～

☆気温の高い時期(10月初旬頃まで)に実施する場合

→圃場の排水対策(排水口開放等)を確認し、深耕(15cm程)する

★気温が低くなってから(10月下旬以降)、乾きにくい圃場の場合

→排水対策(明渠・暗渠等)を施工し、浅耕(5～10cm程)する

秋起こしと併せて、土づくり資材を施用し、令和6年産水稻に備えましょう

NOSAI滋賀からの情報提供

園芸用ハウスの万が一に備えていますか？

近年、線状降水帯の豪雨や台風などの異常気象により園芸用ハウスの被害が増えています。万が一の災害に備えてNOSAIの園芸施設共済を検討してみてくださいは如何ですか？

共済事故(補償の対象となる災害)



【その他】落雷・車両の衝突・航空機の墜落・破裂・爆発・病虫害(施設内農作物加入者)

興味がある方はNOSAI滋賀 北部支所(73-4321)までお問い合わせください！